

ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。

そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。

そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



現在の庁舎



▲昭和58年頃の役場周辺の様子

◀昭和40年増築後の庁舎全景

第15回 役場庁舎の歴史

約40年ぶりの大工事

いよいよ、役場庁舎の増改築工事が始まります。広報6月号の表紙や新聞報道などで、新しい庁舎の完成予想図も公表されました。増築部分は3階建てで、町長室や総務課、産業建設課などが配置されるほか、有事の際に災害対策本部としても活用する研修室を設け、災害に強い町の中心拠点となることが期待されます。また、待合スペースや住民相談室、多機能トイレ、エレベーターなども設置される予定で、来庁される方の利便性・快適性の向上も見込まれます。

現在の庁舎は、昭和54年7月に完成したのち、現在まで38年もの長きにわたり活用されてきました。今回の増改築工事は、役場庁舎にとって約40年ぶりの大規模なものとなります。

町の歴史と庁舎の変遷

「吉富町誌」（昭和30年発行）の記録をたどると、明治17年に「幸子・別府・楡生・今吉・鈴熊・土屋・直江・広津」の区域と「小祝・小犬丸」の区域がそれぞれ一つの村として設置され、各村の役場庁舎が広津と小犬丸にあったという記述があります。このうち、広津の庁舎については現在の農協吉富支店の裏手付近に建てられていたようです。その後、現在の吉富町の前身と

なる「東吉富村」が明治29年に誕生し、大正14年には、現在の役場庁舎がある位置に東吉富村役場が新築されました。

昭和17年の町制施行に伴い村役場はそのまま町役場となり、戦時中も災禍を逃れ終戦を迎えました。その後、昭和40年には北側に新庁舎が増築されました。この増築部分は、現在の庁舎の北側半分として使用されています。さらに、昭和54年の増改築工事によって大正期に建設された旧庁舎部分が建て替えられ、いまの庁舎の姿となりました。



▲大正14年建設の庁舎

躍進する町の拠点として

時代の変遷とともに、行政のあり方も常に変化しています。今回の増改築工事により、役場庁舎は、時代のあらゆるニーズに対応しながら発展する町行政の核となる施設として、今後その機能を一層発揮していくことが期待されます。



▲昭和58年頃の庁舎内の様子